

上旬と名付僧尼の事を執りしを中旬として
賢さを一人定めて政務を司るむ下旬と
て武さを一人立刑罪の事を司るむ是
今の手向深川益川より一三七史の相和
時代ハ 後深草院の頃とあり七史の出。
而も説題體を雅集より上旬館ハ深川村
あり中旬館ハ手向村金剛氷と的場小話
の間にあり下旬館ハ上妻所と稻荷山との
間よりあり後は下は光明院と佐々木院
と屋敷ともいふ今ハ別当里坊屋敷となれ
る事ありて益川の事ハ見へる

一 學頭

雅集曰南山旧記曰七十一代 後多羽院永
久二甲午年大僧正行基來羽黑而入峯保
安二年丑年復入峯依為碩德而衆議而
艸創學頭院室号勸學院止住一歲入寂
云くは事未考其傳を知るといふとも見る
傳に記さず又行基塚といふあり學頭屋敷
といふハ又重塚の邊にありとて羽深記に
是に學頭法性院と記すとあり七代法山乃